

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (たんぼぼ)		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和2年8月15日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170500629-00&Ser.vi.cd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共に個々に合った外出支援、体調管理に力を入れています。しかし、今年に入りコロナの影響もあり、外出の支援が出来ていません。常に体調管理に力を入れ、朝夕のバイタルチェック、週1のドクター回診などで、変化のある利用者様の早期発見に努めています。また、外出が出来ない為中庭を利用して、季節の野菜作りや、観葉植物などを育てる提供をしています。また、地域との繋がりが現在では出来ない為ボランティアの受け入れが出来ず、何かしらの利用者様の満足度を上げる為、自分らしい個々の居室作りを行っています。希望者のみですが、自分の好きな物を飾ったり、ベッドの位置を変えたりして自分の部屋作りのお手伝いをさせて頂いています。精神面の安定を提供できればと考えます。また、洗濯たたみや、お盆拭き、食事の後の茶碗洗い、掃除機、清拭たたみ、ボタン付け、雑巾縫いなどの入居者様の役割を見つけ、やれることの嬉しさの提供をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは医療機関が母体となっている法人グループの一員であり、医療福祉等の施設を複合的に展開している敷地内に立地している。また、法人の総合クリニックが隣接しており、連携関係もとても良く、利用者の安心感につながっている。ホームは大きな窓がある造りであり、中庭を介して日差しが差し込む等採光に優れ、広々と落ち着いた空間となっている。中庭には木々が植えられ、菜園が作られており、季節の野菜の栽培にこそしむことにより、四季や土の感触を感じることができている。職員は利用者のポテンシャルを引き出す観点から、持てる強みを活用し、よりQOLを高めた日常生活を営むことができるよう、支援に取り組んでいる。また、経験豊かな職員が多く、利用者の状況に合わせたケアができている。今年は、コロナ禍の状況下にあるので、コロナ対策等、様々な感染症対策に万全を期している。今年度の外出活動や地域交流は困難な状況であるが、例年は、積極的に地域への外出支援を行ったり、地域の人々との幅広い交流活動を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。カンファレンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。	コロナ禍の中にあっても、ホーム独自の理念「ゆったり、楽しく、寄り添って」の実践に努めている。日常的なケアの場面では、三密にならないようソーシャルディスタンスを保ちながらも、利用者に寄り添う姿勢でケアにあたっている。職員は理念を名札に入れ、カンファレンス等で読み合わせをする等、理念の意識化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。地域主体の活動への参加も昨年度までは出来ていたが今年度に入り出来てはいない。	今年度は、コロナ禍の状況下であり、地域との交流はできていないが、例年、地域の拠点施設として、自治会と連携し、地域の清掃活動にも参加している。また、近隣を散歩する中で、挨拶を交わしたり、買い物をしたりする等、日常的に交流を行っている。さらに、ホームの行事には多くの地域住民に参加していただく等、地域との交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていただく機会がある。(今年度は中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはっと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。	今年度は、コロナ禍の状況下にあるため、開催していないが、例年、定期的に法人グループの他事業所と合同で、運営推進会議を開催している。会議には、市や地域包括支援センター職員、自治会長、地区班長、利用者・家族など多様な立場から参加があり、ホームの運営状況等の報告や意見交換が行われている。	今年度は、コロナ禍にあつて、開催ができていない現状であるが、その中でも、推進会議に提出している資料を各委員に送付し、意見を伺う等の代替手段の工夫についての取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。	介護保険制度やホームの運営についての疑問点等は、その都度、市担当課に相談している。また、市の調査員が認定調査などで来訪した際には、利用者支援の方法等について相談し、助言を受ける等、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。	身体拘束をしないケアの実践について、具体的にどのような行為が身体拘束となるのか、また、身体拘束のもたらす弊害について研修を受講したり、様々な事例を検討する等して、職員の共通理解を深めるとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方がみえたため、その都度情報を共有し、理解に努めていたが、退去されたため、機会があれば理解と活用をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信をできる場となっている。	例年は、家族会を開いたり、夏祭り等の行事の機会を捉えて、利用者・家族の意見を聞いているが、今年度はなかなかできていない状況であるので、電話を活用して家族から意見を聞いたり、日々のケアの中でさりげなく利用者からの意見をくみ上げるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。	管理職は支援の現場に身を置き、日々の業務を通じて、職員への声かけに努める等、職員が気軽に意見を出しやすいような雰囲気づくりに努めている。職員の個性を尊重し、様々な意見に耳を傾けるとともに、職員の意見をホームの運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にも上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげていたが、今年度はコロナの関係で中止されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会があるが、今年度はコロナの関係で出来てはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にバックグラウンドアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や教会、喫茶店、、馴染みの場所への外出の提供が出来ず、唯一の美容院が施設に入り込み実施が出来ている。	生活歴や習慣などをまとめたバックグラウンドアセスメントシートの情報をもとに、利用者の意向や大切にしている馴染みの人や場所について把握し、関係継続に努めている。今年度は、コロナ禍にあって、なじみの場所への外出や家族・知人の面会ができない状況にある。	今年度は、コロナ禍にあって、馴染みの場所への外出や家族・知人の面会ができない状況であるが、代替策として、例えば、リモート面会にスムーズに対応できるよう、モバイルパソコンやタブレット等の導入について検討されたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。	バックグラウンドアセスメントシートを活用するとともに、日頃の支援を通じたかかわりの中で、利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合には、表情や行動を観察するとともに、非言語的コミュニケーションを活用した支援の中で読み取り、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも面会時や、電話での日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。	計画書には医師や看護師の意見を記入できる欄を設け、利用者・家族の意見を踏まえて他職種と連携し、定期的にカンファレンスを実施し、職員チームで介護計画を作成している。計画はモニタリングを行い、6ヵ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアは現在受け入れは出来ていない。隣接する託児所の幼児たちの来訪もコロナの関係で出来ず。入居者様の楽しみとなっていたが、残念である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。	協力医療機関の訪問診療が毎週、定期的に行われており、情報を職員間で共有できている。他科受診については、家族の同行協力の上、受診してもらっている。総合クリニックを母体とした医療法人が展開するホームであり、医療との連携が密に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。	入居時に終末期ケアについての方針を説明し、希望を聞いている。重篤化した場合には、その都度、利用者・家族と話し合いを持ち、看取りケアについても、ホームでできることやできないことを説明し、できる限り家族の希望に沿うよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いていたが、やはり今年度に入り実地出来ず。	例年、定期的に、昼夜を想定した避難訓練を地域の方にも参加してもらい、実施している。ハザードにかからない地域であるが、近年の気象変動に鑑みて、例えば、停電対策等、様々な災害を想定して今後の対策を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。	食事介助、トイレ誘導等、日常生活の中で様々な配慮が必要な場面で言葉がけに留意し、さりげない支援を行っている。利用者の居室についてもプライバシーを確保し、それぞれの生活スタイルや個性を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。また、車椅子の方の腰への負担なども考慮し、ベットへの休養の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は月に一度の自由メニューの提供をしていたが、現在は買い物に行くことが難しい為、食事ではなくおやつに手作りを提供し、楽しんで召し上がって頂いた。また、食事の配膳を器の量や器にこだわり、目で楽しむ食事の提供を行った。	今年度はコロナ禍の中にあるので、外食の代わりにホーム内での食事が楽しみになるような支援に努めている。食事の副菜は法人施設にある厨房で調理しているが、主食、汁物はユニットで調理し、ご飯の炊ける匂いや温かい汁ものの匂いが食欲を増進させている。食事は陶器の器を使用し、小分けにして、目で見て楽しんでもらえるよう工夫して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、さりげないトイレ誘導を行う等、可能な限り、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は月～土までの間、週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。	週2回の入浴を基本とし、利用者の状況や要望に合わせて、柔軟に入浴支援を行っている。また、しょうぶ湯や柚子湯等で季節を感じてもらえるよう工夫している。入浴の拒否がある場合には、声かけをしながら誘導する等、様々な方法で支援にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるようにカルテには情報が入っている。又臨時の薬には薬箱に服用期間などの明細が貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけでなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っていたが、今年に入り出来ずにいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近隣へ散歩に出かけていたが、今年度に入り出来てはいない。せめて、気候の良い日に中庭にでて、花や、草抜き、観葉植物の手入れ、季節の野菜などの手入れなどの楽しみを提供している。	例年は、近隣の散歩、地域へ買い物や外食等で外出を行っているが、今年度はコロナ禍の状況にあり、外出が困難である。その中であっても、ホームから中庭の眺めを楽しんだり、散策したり、植物の手入れにいそしんだりすることで、利用者の生活に彩りが見られるとともに、QOLの維持・向上につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は一時的に立替をし、引き落としをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。	屋内は、大きな窓から日差しが差し込む等、明るく広い造りであり、廊下に落ち着けるソファが置かれ、中庭の自然を眺めて四季を感じ取ることができる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやテーブルを設置し、お好きな場所で過ごすことができる。また、中庭が良く見えるようにそちらの方にもソファを置いて利用者様同士の会話作りを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。	居室には利用者の馴染みの調度品が持ち込まれ、家族の写真等が飾られる等、それぞれの個性や生活スタイルを尊重した空間になっている。例えば、ベッドなども利用者の状況に合わせて配置替えする等、工夫している。その人らしい居室づくりを目指す職員の思いが、日々のケアの中で気づきを得て、居心地よく過ごせる居室づくりの工夫につながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動ができるように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (すみれ)		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和2年8月15日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170500629-008&SerViCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共に個々に合った外出支援、体調管理に力を入れています。しかし、今年に入りコロナの影響もあり、外出の支援が出来ていません。常に体調管理に力を入れ、朝夕のバイタルチェック、週1のドクター回診などで、変化のある利用者様の早期発見に努めています。また、外出が出来ない為中庭を利用して、季節の野菜作りや、観葉植物などを育てる提供をしています。また、地域との繋がりも現在は出来ない為ボランティアの受け入れが出来ず、何かしらの利用者様の満足度を上げる為、自分らしい個々の居室作りを行っています。希望者のみですが、自分の好きな物を飾ったり、ベッドの位置を変えたりして自分の部屋作りのお手伝いをさせて頂いています。精神面の安定を提供できればと考えます。また、洗濯たたみや、お盆拭き、食事の後の茶碗洗い、掃除機、清拭たたみ、ボタン付け、雑巾縫いなど

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。地域主体の活動への参加も昨年度までは出来ていたが今年度に入り出来てはいない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていただく機会がある。(今年度は中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方はみえない為、もし各当事者が現れた時はその都度情報を共有し、理解に努め、支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・フレット等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげていたが、今年度はコロナの関係で中止されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会があるが、今年度はコロナの関係で出来てはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にハツククラフトアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や教会、喫茶店、馴染みの場所への外出の提供が出来ず、唯一の美容院が施設に入り込み実施が出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも面会時や、電話での日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアは現在受け入れは出来ていない。隣接する託児所の幼児たちの来訪もコロナの関係で出来ず。入居者様の楽しみとなっていたが、残念である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いていたが、やはり今年度に入り実地出来ず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。また、車椅子の方の腰への負担なども考慮し、ベットへの休養の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は月に一度の自由メニューの提供をしていたが、現在は買い物に行くことが難しい為、食事ではなくおやつに手作りを提供し、楽しんで召し上がって頂いた。また、食事の配膳を器の量や器にこだわり、目で楽しむ食事の提供を行った。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月～土までの間、週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるようにカルテには情報が入っている。又臨時の薬には薬箱に服用期間などの明細が貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っていたが、今年に入り出来ずにいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2階は中庭が無い為、ベランダに出てひなたぼっ子や、上から下の中庭を眺めて頂き目から楽しんで頂いています。また、そのベランダを利用して、外での昼食や、お茶のじかんを利用している事で外出したかのような雰囲気を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は一時的に立替をし、引き落としをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやテーブルを設置し、お好きな場所で過ごすことができる。また、中庭が良く見えるようにそちらの方にもソファを置いて利用者様同士の会話作りを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動が出来るように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (れんげ)		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和2年8月15日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170500629-008&sr.vi.cdCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和2年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共に個々に合った外出支援、体調管理に力を入れています。しかし、今年に入りコロナの影響もあり、外出の支援が出来ていません。常に体調管理に力を入れ、朝夕のバイタルチェック、週1のドクター回診などで、変化のある利用者様の早期発見に努めています。また、外出が出来ない為中庭を利用して、季節の野菜作りや、観葉植物などを育てる提供をしています。また、地域との繋がりも現在は出来ない為ボランティアの受け入れが出来ず、何かしらの利用者様の満足度を上げる為、自分らしい個々の居室作りを行っています。希望者のみですが、自分の好きな物を飾ったり、ベッドの位置を変えたりして自分の部屋作りのお手伝いをさせて頂いています。精神面の安定を提供できればと考えます。また、洗濯たたみや、お盆拭き、食事の後の茶碗洗い、掃除機、清拭たたみ、ボタン付け、雑巾縫いなど

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。地域主体の活動への参加も昨年度までは出来ていたが今年度に入り出来てはいない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていただく機会がある。(今年度は中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方はみえない為、もし各当事者が現れた時はその都度情報を共有し、理解に努め、支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にも上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・フレット等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげていたが、今年度はコロナの関係で中止されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会があるが、今年度はコロナの関係で出来てはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にハツククラフトアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や教会、喫茶店、馴染みの場所への外出の提供が出来ず、唯一の美容院が施設に入り込み実施が出来ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも面会時や、電話での日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアは現在受け入れは出来ていない。隣接する託児所の幼児たちの来訪もコロナの関係で出来ず。入居者様の楽しみとなっていたが、残念である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いていたが、やはり今年度に入り実地出来ず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。また、車椅子の方の腰への負担なども考慮し、ベットへの休養の提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は月に一度の自由メニューの提供をしていたが、現在は買い物に行くことが難しい為、食事ではなくおやつに手作りをして提供し、楽しんで召し上がって頂いた。また、食事の配膳を器の量や器にこだわり、目で楽しむ食事の提供を行った。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月～土までの間、週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるようにカルテには情報が入っている。又臨時の薬には薬箱に服用期間などの明細が貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っていたが、今年に入り出来ずにいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近隣へ散歩に出かけていたが、今年度に入り出来てはいない。せめて、気候の良い日に中庭にでて、花や、草抜き、観葉植物の手入れ、季節の野菜などの手入れなどの楽しみを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は一時的に立替をし、引き落としをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやテーブルを設置し、お好きな場所で過ごすことができる。また、中庭が良く見えるようにそちらの方にもソファを置いて利用者様同士の会話作りを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動が出来るように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		